

特集
開設
50周年



はなし
×
ちくば

チクバ外科広報誌 VOL.28
2022.APRIL

特集 開設50周年 50th Anniversary





満々」だけ。下部消化器外科専門病院を目指した。外科医になつて10年経っていたが経営には全くの素人で、多くの人の助けを頂き、何とか立ち立てるまでに約4年かかった。医療は病人を相手の接客業だと私は考え、最初から鉄筋コンクリート造りで全館土足として

開設50周年を迎える私の心境

チクバ外科・胃腸科・肛門科病院がこの地で産声をあげてもう50年が過ぎた。私は38歳だった。開業の土地探しの条件として

- ① 地価が安く、
- ② 交通の便が良く、
- ③ 自然が残されている

という所を選んだのがここだった。生まれ育った所でもなく知人もなく、おまけに金もなかった。私にあったのはただ「やる気



会長
竹馬 浩
HIROSHI CHIKUBA

全職員が掃除に力を入れた。清潔で温かみのある医療機関を目指した。この理念は50年経った今でもちっとも変わっていない。手術数も徐々に増加して、学会発表や講演会を各地でやり、徐々に全国区に成長していった。職員は働くことに喜びと誇りを持つようになり、保育室を設け、慰安旅行もできるようになった。

50年間で心に強烈に残っていること

- ① 1982年瀧上Dr渡米、大腸内視鏡検査「新谷流」を学び帰国後大活躍
- ② 1988年第43回日本大腸肛門病学会副会長、第6回学会教育セミナー(広島)代表世話人を務めた
- ③ 大西病院(三重県)と病院間姉妹提携を行い人事交流相互親善訪問等を重ねた
- ④ 研修医多数を受け入れ、手術・内視鏡件数が増加の一途をたどった
- ⑤ 病院の改築を繰り返し法人化して経営が安定した
- ⑥ 57歳の春、大動脈解離、59歳の夏、急性心筋梗塞で緊急入院したが瀧上副院長の下全職員が頑張ってくれて、チクバ外科・胃腸科・肛門科病院は微動だになかった。

将来のチクバ外科・胃腸科・肛門科病院に期待すること

個人病院の良いところは、前例に捉われないで、病人や職員がどうすれば喜んでくれるかをいつも考え、笑顔、親切、迅速な行動をとることができるかを各自が努力する事だと私は思う。一言でいえば「思いやり」だ。チクバ外科・胃腸科・肛門科病

院の理念は全職員各自のネームカードに書かれている。

その時代に求められている医療を見抜いてほしい。他病院と同じことをしていたのでは取り残される。建物や設備は、その為の手段であり一番大切なことは「ビジョン(夢)」と「行動力」。夢は各自が自分で見るもので、それに向かって根気よく頑張っていけば目指すところに、何時の間にか近づいている。私はこのことを山登りで学んだような気がする。到達したと思ったら次の山頂があり、夢には限界がなさそうだ。



名誉院長

瀧上 隆夫

TAKAO TAKIUE

会長の意を汲んで

チクバ外科・胃腸科・肛門科病院、開設50周年誠におめでとうございます。

何より開設者の竹馬浩先生ご夫妻が、揃ってお元気で、この節目をお迎えになる事ができたことを心より嬉しく思います。

そして今までの病院をご支援頂き、育てて下さいました元職員、現職員の方々、ご指導頂きました先輩医師、ご諸兄の皆様、関連企業の方々、何よりも、当院を信頼して通って頂きました大勢の患者様に、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

私は、昭和49年(開設2年目)大学三年生の時、竹馬先生に痔瘻の手術をして頂き、それ以来、お尻は切られましたが、「縁」が切れなくなり今まで40数年間、未だに何かとご指導頂き、戻りまでして頂いています。昭和53年大学を卒業し、当時は珍しく大学の医局ではなく民間であるチクバ外科・胃腸科・肛門科病院に入局したのです。その後、昭和55年には三重県の大西病院に胃手術研修の為、国内留学させて頂いたとき、昭和57年にはニューヨークの大腸内視鏡検査の世界的大家、新谷弘実先生のもとへ派遣して頂きました。また、大腸肛門病のメッカであるロンドンのセントマークス病院で研修を経験させて頂き、まさに病院を挙げて育てて頂きました。

竹馬先生と私は、縁故的背景は何もなく、一介の学生に過ぎない私に目を掛けて下さったことは、私の生涯においてまさに僥倖であったとしか言えません。ヒトは「縁」で繋がっていると申しますが、有難、稀有な「ご縁」をいただきました。

時は流れて2000年(平成12年)、チクバ外科・胃腸科・肛門科病院院長を拝命致しました。その冬、竹馬先生は私に「瀧上先生、何もせんでええから院長をやってくれ。他の事は儂がやるから」と仰いました。

私が49歳の時でした。以来18年の長きに亘り、お言葉に甘えて何



ニューヨーク時代

もせず院長職を続けさせて頂きました。それも、医局の先生方、特に、現院長の彰先生、嶋村先生、根津先生には何かと支えて頂き、今の病院にして頂いたことに心より感謝いたしております。そして職員の方々、関連企業の方々、外部の先生たちとの繋がりがもひとしおで、書けば枚挙にいとまがありません。

院長になった時、無能な私に何が出来るだろうかと考えてみました。思いついたのが、以下の4点の実行でした。

- ①できる限り誰よりも早く出勤し、誰よりも早く挨拶をする。挨拶はヒトとヒトとの繋がりの場で最も大切であり、しかもタダでお金がかからない。病院にも経済的負担がかからない。
- ②可能な限り仕事は休まない。暇な、といえは暇なのだが、今でも元日以外は年中無休で出勤している。64歳(平成28年)の山陽新聞賞受賞の時にも述べた通り「仕事を休みたいと思った時が仕事を辞める時」だと決めている。

③「ゴミを拾う。これは竹馬先生より教えて頂いた実践事で『何でもないようだが「言うは易し、行うは難し」だ。小さなゴミでも拾った時は、大きな社会貢献をしたような気分になるものだよ』と。

④何事にもなるべく「NO」と言わない。私達の仕事は言ってみればサービス業です。サービス業にNOという負のイメージは要らない。私の辞書には「NO」という言葉が欠落している。

18年間院長職に携わり、反省も沢山あります。前述の山陽新聞賞受賞祝賀会の席で、元大阪医大教授の岡島邦雄先生から祝辞を戴きました。『人生で大切な事は、一番にヒトを残すこと。つまりヒトを育てること。二番に名を残すこと。お金を残すことは下(ゲ)である。お金も大切であると思うが、肝心なのはその使い方であると思う』と。

私には一番大切な、「ヒトを残すこと」が出来たのでしょうか。

か。考えてみれば、私自身が未だに修行中で、皆様にご指導頂いている最中なので、ヒトを育てるなど覚束ない事でした。しかし、それがかえってヒト育てに役立っているのでは、と思いません。

医局の先生方、職員の皆様、諸兄姉の皆様、これからもチクバ外科・胃腸科・肛門科病院を末永く何卒よろしくお願い致します。100周年の大きな節目がまた迎えられることを祈念して筆を置きます。



理事長 / 院長

竹馬 彰

AKIRA CHIKUBA

チクバ外科・胃腸科・肛門科病院 の現在と未来

今年チクバ外科・胃腸科・肛門科病院は開設50周年を迎えます。

2012年、40周年を迎えたことを機に竹馬浩会長と瀧上隆夫名誉院長が築きあげたこの病院の舵取りを任せられ、理事長に就任してから10年が経ちました。



この10年を振り返ると全職員数は107名から127名に増え、それぞれの部署がますます充実してきました。

当院の理念は「大腸肛門領域の疾患を中心にした消化器専門病院として地域の医療に貢献いたします。」であり、この理念をもとに運営しております。この10年で特に充実したのは潰瘍性大腸炎・クローン病を中心としたIBD（炎症性腸疾患）領域です。

医局には垂水副院長が加わり、IBDを中心に内科医の目が入るようになり、診療面で大きく充実してきました。多職種でIBDチームをつくり、IBD患者さん向けの講演会や料理教室などを開いています（残念ながらこの2年ほどは新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催できていませんが）。また、新しい治療法を患者さんに提供できるよう新薬の治験にも参加できるようにしてきました。

当院開院以来の肛門疾患診療は人口の高齢化、若年者の減少により少しずつ変化してきており、高齢者特有の直腸脱をはじめとした骨盤臓器脱が増えてきています。そのため嶋村副院長を中心に排便機能チームをつくり、直腸肛門機能検査を取り入れ診断・治療を充実させようと取り組んでおります。

大腸内視鏡検査ではより多くの方に検査・治療をスムーズに受けていただくため、2020年から淳風会健康管理センター倉敷と連携を開始しております。この連携には地域医療連携室が活躍しています。地域医療連携室は他にも病診連携・在宅医療や介護施設との連携

などを通じて患者さんの治療・介護がスムーズに進むよう貢献してくれています。

大腸がん患者さんの診断・治療にも力を入れております。瀧上名誉院長により早期大腸癌の内視鏡的治療としてESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を2012年より取り組むようになり、今まで腸管切除を必要とした病変を内視鏡的に治療できるようにになりました。また2018年に管理棟を増築したことを機に外来化学療法を行うスペースを充実させました（現在は新型コロナウイルス感染症疑いの方の診療スペースに転用しています）。また手術治療でも鈴木医師を中心に腹腔鏡の手術がコンスタントに行われるようになりました。日々前進していることを感じています。

2年前からの新型コロナウイルス感染症の流行に際して活躍したのが感染症対策委員会です。多職種が連携して対策をリードし、現在に至るまで院内感染を防いでいます。

その他にもがん化学療法チーム、栄養サポートチーム（NST）、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、診療録管理チームなどが多職種で構成されチクバ外科・胃腸科・肛門科病院でのチーム医療が行われております。その活動はこの10年間で飛躍的に充実してきております。

ここで未来に目を移してみます。高齢化、人口減少、医療制度改革など様々な問題が社会を取り巻いています。今後10年での状況は色々と変化していくでしょう。若い世代のスタッフも力をつけてきております。次の世代交代に向けての準備も始めていかなければなりません。チクバ外科・胃腸科・肛門科病院は大腸肛門疾患の専門病院として今掲げている理念のままに地域医療に貢献できるよう努力を続けていきます。

どうか応援をよろしくお願いします。

当院のスペシャリストを紹介する

Special One

理事
竹馬清枝

Kiyoe Chikuba



チクバ外科・胃腸科・肛門科病院 開設50周年
を迎えてのお気持ちは？

いつの間にも50年も経ったんでしょう。歳を取ったはずですが、50年間本当にいろいろな方のご協力で、ここまでチクバ外科が大きくなってこられました。皆さんに評価されるような病院になったことを、本当に嬉しく思っています。ありがたいことです。

50周年を迎える中で、「一番嬉しく心に残っている出来事は？」

病院がここまで発展してこれたことですね。

以前の建物から、建て替えることができ、本当に患者さんのおかげもあるし、従業員の皆さんのおかげもあるし、みんなの力でここまでチクバ外科が大きくなってこれたことが嬉しいですね。最初は19床の本当に小さな一棟だけの建物だったですからね。

みなさんの協力、みなさんの思い、みなさんが同じ方向を向いて病院の為に仕事をして下さったということが嬉しいですね。

これからのチクバ外科・胃腸科・肛門科病院へ期待することは？

若い世代が、次々育ってきています。踏襲するだけじゃなく、発展的に仕事をしてほしいですね。

踏襲してほしいのは、病院の雰囲気。皆さんが喜んで動いて下さっている、そういう雰囲気です。残ってほしいなと思います。

患者さんになってる私の友達からも、いつもいい病院だなんて。気持ちがいい病院だなんて。看護師さんたちが、こやかに仕事してるって評価してもらっているの、そういう評価を受けることは嬉しいことです。

チクバのいい雰囲気を引き継ぎながら、発展していったらいいですね。

医療事情いま昔

肛門診療四方山話

Medical Circumstances

名誉院長 瀧上 隆夫



一般の方は、“痔”といえは“イボ痔”くらいしか思い浮かばないかもしれませんが、筆者らが平素診察している肛門疾患には、別表のように種々あります。そのうち約8割が痔核（イボ痔、血管病変）、痔瘻（アナ痔、感染）、裂肛（キレ痔、外傷）で、肛門の三大疾患と呼ばれるものです。他には、ご高齢の方に多い直腸脱、痔瘻と似ているがアポクリン汗腺の慢性炎症である膿皮症、仙骨部に体毛が混入する後天性の毛巣瘻、婦人科領域の直腸腔瘻、会陰裂傷、直腸瘤、性感染症の梅毒、コンジローマ、AIDSなどがあります。悪性疾患として肛門管癌（腺癌、扁平上皮癌）、悪性黒色腫、白血病、ボーエン病、パジェット病などがあります。痔瘻も長年（10年以上）患っていると癌化して、痔瘻癌を併発することもあります。直腸肛門周囲が化膿する直腸肛門周囲膿瘍も、放置すると、糖尿病などの基礎疾患を有する方ではフルニ工症候群（Fournier's syndrome）といって、好気性菌、嫌気性菌の混合感染が起こり、壊疽性筋膜炎を起こすこともあります。他院で、肛門周囲膿瘍を抗菌剤の投与のみで様子を覗いていて、当院を受診した時にはフルニ工症候群を併発、敗血症状態となり不幸な転帰をとった症例も、筆者らは経験しています。

若年者の肛門診療は、常にクローン病を念頭に置いて診察する必要があります。クローン病は若い人に発症する、口から

お尻までの消化管のどこにでも慢性的な炎症を起こす疾患で、潰瘍性大腸炎とともに炎症性腸疾患（IBD）と呼ばれ、難病指定になっている病気です。筆者が大学を卒業した昭和53年頃ではまだ珍しい疾患でしたが、その後は右肩上がりに急上昇、令和3年現在、潰瘍性大腸炎が約22万人、クローン病が約7万人罹患している状態です。クローン病の初期症状に肛門病変が出るのが多く（クローン病の消化器症状があれば、小児科、内科を受診されるが）肛門病変のみで肛門科を受診されるため、筆者らは肛門病変でクローン病を見落とさないように診察することが大切です。（つづく）

肛門及び肛門周囲の疾患

- ①痔核
 - ②痔瘻
 - ③裂肛
 - ④直腸粘膜脱、直腸脱、肛門括約筋不全
 - ⑤膿皮症（慢性化膿性汗腺炎 hidradenitis suppurative）
 - ⑥毛巣瘻（filiform sinus, Jeep 病）
 - ⑦皮膚疾患：肛門皮膚炎、肛門掻痒症、粉瘤、ペーヘーネット、結核
 - ⑧※悪性疾患：肛門管癌（SCC）、腺癌、痔瘻癌
 - ⑨特殊な疾患：悪性黒色腫、白血病、Paget 病、Paget's spread、Bowen 病
 - ⑩感染症：梅毒、コンジローマ
 - ⑪婦人科類似疾患：直腸膿瘍、直腸癌、会陰裂傷、会陰腫子宮内膜炎
 - ⑫囊胞性疾患：tail gut cyst
 - ⑬その他：異物、代謝
- 原因不明の肛門部痛（癢痕痛、陰部神経障害性疼痛、一過性直腸痛）
- ※生命に関わるもの

肛門の三大疾患（80〜90%）



STAFF

スタッフ紹介

期待のニューフェイス

池内典子 NORIKO
IKEUCHI

栄養課 調理

趣味・ストレス解消法
ライブハウスやフェスに行くこと

好きな言葉
感謝の心

仕事へのこだわり
患者さんや職員の皆様からおいしいと
言ってもらえる食事が提供できるよう頑張ります。



期待のニューフェイス

橋本由紀恵 YUKIE
HASHIMOTO

内視鏡センター勤務

趣味・ストレス解消法
ドライブ、旅行、スポーツ観戦

好きな言葉
人生一度きり!

仕事へのこだわり
患者さん一人一人との関わりは短いですが、
安心して検査を受けてもらえるよう
笑顔を忘れず接していきたいです。



期待のニューフェイス

茶円恵梨 ERI
CHAEN

外来勤務

趣味・ストレス解消法
子供と遊ぶこと、旅行

好きな言葉
一期一会

仕事へのこだわり
一人一人の患者様のペースに合わせて
寄り添い、これからの生活に向けて患者様と
ご家族と一緒に考える看護がしたいです。



期待のニューフェイス

三吉佐智子 SACHIKO
MIYOSHI

内視鏡センター、病理検査室

趣味・ストレス解消法
カメラ（オールドレンズ）・犬と遊ぶこと

好きな言葉
為せば成る、為さねば成らぬ何事も

仕事へのこだわり
内視鏡検査では患者さんに寄り添い、安心して
検査が進められるよう心掛け、病理検査では
正確に結果報告を行うよう努めています。



でーれーえー人

宮地順子 JUNKO
MIYACHI

看護部 看護補助者

趣味・ストレス解消法
旅行・愛犬に癒されること・パン屋探し

好きな言葉
前向き

仕事へのこだわり
すぐに行動することを常に心掛け、
少しでも皆さんの役に立てるよう頑張っています。



※「でーれーえー人」とは、岡山弁で「とても良い人」という意味です。頼りになるベテランを紹介するコーナーです。



チクバ外科の

Flower Road

フラワーロード



会長 竹馬 浩

嫁入りしてきたアイスランドポピー

世羅高原（ラベンダーの丘）から、チクバのフラワーロードに可愛くてたくましい花嫁が嫁いできた。ピンク、白、オレンジ色の花弁が、出勤途中の職員をけなげに出迎えてくれている。これまでの「ヒナゲシ（虞美人草）」のようなハデハデしさはないが、とにかく上品で優しい。ケシと聞けばモルヒネを思うが園芸種だから心配ご無用。暑さに弱いので夏は苦手だ。短い命の花嫁の姿をどうぞスマホに収めてやってほしい。

管理栄養士が
オススメする
メニュー

低脂肪レシピ
チキンカツ丼

材料 (2人分)

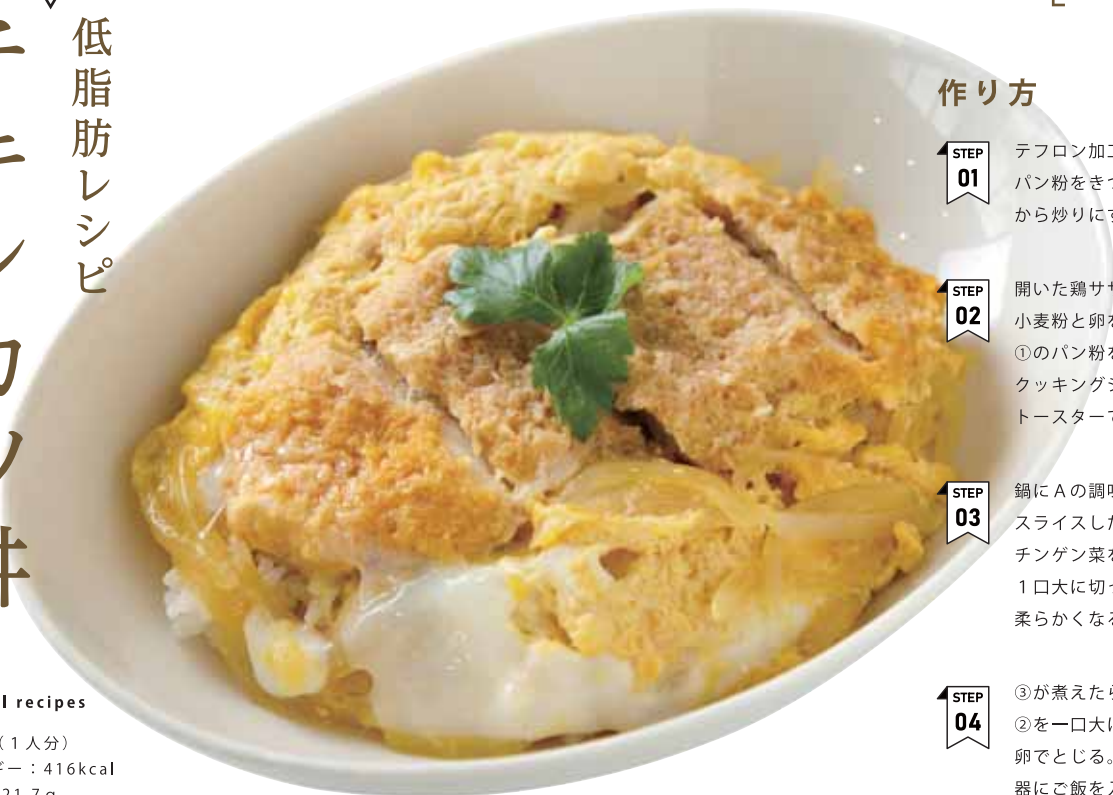
- ごはん 260g
- 鶏ササミ 100g
- 塩 少々
- 酒 少々
- 玉ねぎ 50g
- 三つ葉・チンゲン菜など 20g
- 卵 2個

衣

- パン粉 15g
- 卵 20g
- 小麦粉 5g

A

- しょうゆ 大さじ1
- みりん 大さじ1
- 酒 少々
- さとう 大さじ1/2
- 出し汁 150cc



作り方

- STEP 01** テフロン加工のフライパンでパン粉をきつね色になるまでから炒りにする。
- STEP 02** 開いた鶏ササミに塩・酒をふり、小麦粉と卵を混ぜたものをつけ、①のパン粉をまぶし、クッキングシートを敷いてトースターで4、5分焼く。
- STEP 03** 鍋にAの調味料、スライスした玉ねぎと、チンゲン菜を使う場合は1口大に切って入れ、柔らかくなるまで煮る。
- STEP 04** ③が煮えたら、②を一口大に切って入れ、卵でとじる。器にご飯を入れ、盛り付ける。

Medical recipes

栄養価 (1人分)
エネルギー : 416kcal
蛋白 : 21.7g
脂質 : 5.1g
食物繊維 : 1.3g



一口メモ

揚げずにサクサクのチキンカツができます！チキンカツはパン粉をまぶすところまで作り、冷凍しておくことで使えて便利です♪チキンカツ丼以外にも、トーストした食パンに、茹でたキャベツとチキンカツ、ソースをサンドして、チキンカツサンドにするのもおすすめです。

このレシピは、低脂肪・低残渣・低刺激であり、腸管の安静を保つことが重要なクローン病の患者さんも安心して食べる事ができます。また、普段から脂っこいものをよく食べられる方にもおすすめです！ぜひお試しください♪ (担当：調理長 石川)

ACCESS

当院へのアクセス方法

高速道路から

瀬戸中央道の水島インターで「玉野岡山方面」出口から一般道へ。二つ目の信号交差点「郷内」を右折し、すぐ次の信号を左折（水島インターより約3分）。

一般道から

県道児島線（21号線）を児島方面へ向かい、水島インター手前のガソリンスタンド（ENEOS）のY字路左側。

JRでは

JR瀬戸大橋線の茶屋町駅で下車、タクシーで約10分。

バスでは

倉敷駅前バスステーション6番ホームから下電バス「JR児島駅行き（天城線）」で約40分。「チクバ外科前」バス停にて下車、徒歩約1分。



 **チクバ外科**
胃腸科・肛門科病院

〒710-0142 岡山県倉敷市林2217 TEL 086-485-1755 FAX 086-485-3500

[診療受付時間] 午前 8:15~11:30 / 午後 12:30~17:00 ※ストマ外来 予約制

<http://www.chikubageka.jp>

はなし×ちくば

チクバ外科胃腸科肛門科病院 広報誌
第28号 2022年4月発行

広報誌「はなし×ちくば」は、患者さんや医療従事者の皆さんに専門性の高い医療活動をより分かりやすく紹介しています。タイトルのお通り「はなしかける」ように発信することで、よりよい関係を築いていくことを目指します。

会長ご夫妻が元気に開設50周年を迎えられたことを職員一同大変うれしく思っています。撮影時に会長より感謝の気持ちを込めて花束が贈られました。長い間お互いを支えあつて来られた関係性が伝わってきました。いつも仲良く、職員や患者さんのことを大切に考えておられる姿勢は、チクバ外科胃腸科肛門科病院的組織風土や職員の行動にも大きな影響を与えてくれます。また、職員のために季節の花をフラワーワードに植えてくださり癒されております。その思いを若い世代がこの先も大切に受け継いでいこうと思います。引き続きご指導をよろしくお願い致します。



編集後記